SBS2007カップ 国際ユースサッカー

最終日

SBS杯国際ユースサッカー（日本サッカー協会、県サッカー協会、静岡新聞社・静岡放送主催）最終日は14日、エコパスタジアムで2試合を行った。2勝同士の優勝決定戦となった静岡ユースーウクライナ代表は、前半34分に静岡が押谷―松田とつないで先制、後半開始早々にも村松が決め、ウクライナを突き放した。静岡ユースの優勝は1985年以来4度目。米国代表は、後半22分に1点を奪い、日本代表を振り切った。

きのうの結果
静　岡 2―0 ウクライナ
米　国 1―0 日　本

静岡、攻守に切れ

ウクライナの反撃封じる

静岡ユース（9）2（1―0、1―0）0（6）ウクライナ代表
U―18

▽得点者【静】松田（押谷）石神（松田）

【評】静岡が攻守にウクライナを寄せ付けなかった。

静岡は立ち上がりこそ、ウクライナの速さに押されたが、すぐにペースをつかんだ。中盤で競り勝ち、サイドから揺さぶってウクライナゴールに迫った。

先制点は前半34分。中盤からの縦パスを受けた押谷が左サイドで粘って中央に流すと、松田が落ち着いてゴール右隅にけり込んだ。さらに後半2分、小気味よくパスをつないで相手守備陣をほんろうし、石神が決定的な2点目を奪った。

ウクライナは過去2戦で披露した速さを生かした攻めがさえたウクライナ。だがこの日は一転、静岡の素早いパス回しと鋭い出足に苦しみ、完敗した。これには、ルィシェンコ監督は「静岡は素晴らしい」と脱帽。だが「国の代表より、県の代表の方が強いなんて不思議だ」と首をひねった。

SBS杯国際ユースサッカー勝敗表

	静岡	ウクライナ	米国	日本	勝ち点	得点	失点
静岡		2―0	1―0	2―1	9	5	1
ウクライナ	0―2		3―0	1―0	6	4	2
米国	0―1	0―3		1―0	3	1	4
日本	1―2	0―1	0―1		0	1	4

3試合連続で先取点

パスや鋭い出足 ウクライナ脱帽

○…初戦の日本戦、続く米国戦と速さを生かしたパスやシュートの精度も欠くウクライナは主力6人を欠き、新たなメンバーを加え今回の大会に臨んだ。「主力がいないうえ、経験したことのない暑さ。さらに、退場者も出た」。ルィシェンコ監督は苦戦の要因を挙げながらも、「負ける方が勝ちより多くのものを得ることがある」と、独特の表現で成果を言及した。

2勝同士の事実上の決勝戦。しかも相手は前の2試合で攻守に高いレベルのサッカーを見せたウクライナ。「思い切り楽しんでこい」と山田監督に送り出された静岡ユースの選手たちだったが、最初は硬さが見られた。しかし開始から10分間のウクライナ怒とうの攻めをしのぐと、選手たちにいつも通りの切れのあるプレーが戻ってきた。

34分、押谷のクロスを松田が決めた。押谷と松田は中学時代、ジュビロジュニアユースで2トップを組んでいた。

ウクライナは主力6人をけがなどで欠き、新たなメンバーを加え今回の大会に臨んだ。「主力がいないうえ、経験したことのない暑さ。さらに、退場者も出た」。ルィシェンコ監督は苦戦の要因を挙げながらも、「負ける方が勝ちより多くのものを得ることがある」と、独特の表現で成果を言及した。

【ウクライナ】4・5・1
GK　ドムシェンコ（磐田ユース）
　　ドブリヤンスキ（藤枝東高）
　　ルィシェンコ（静岡学園高）
　　ルィチリフ（藤枝東高）
　　ルィチリフ（静岡学園高）
　　ルィチリフ（藤枝東高）
　　ルィチリフ（清水商高）
　　ルィチリフ（静岡学園高）
　　ルィチリフ（藤枝東高）
　　ルィチリフ（磐田ユース）
　　ルィチリフ（藤枝東高）
　　ルィチリフ
　　ルィチリフ
　　ルィチリフ
　　ルィチリフ
　　ルィチリフ
14　S　H　5
8　G　K　3
6　C　K　17
16　F　K

【静岡】3・5・2
堀田・暁秀高（松田）片山・磐田東高（押谷）杉本・藤枝明誠高（赤堀）
【ウ】ボロンチェンコ（マルチニュク）カプラシュ（クラベツ）スボラク（ヤルモレンコ）ミーシェンコ（ナザルチュク）コフプリャンカ（ゾズリャ）
赤村奥鳥吉石松池河押松

静岡ユースーU―18ウクライナ代表　前半、マルチニュクのドリブルを阻む松本⑮と石神⑬＝エコパスタジアム

〝黄金世代〟以来の勝利

大会前に「また一緒にやれればいいな」と言い合っていただけに、息もぴったりのゴールだった。

3試合連続で先取点を取り、静岡ユースにエンジンがかかった。後半にもゴール前で見事なパス回しから、最後は石神がけり込んで2点目を奪い、勝利をつかんだ。

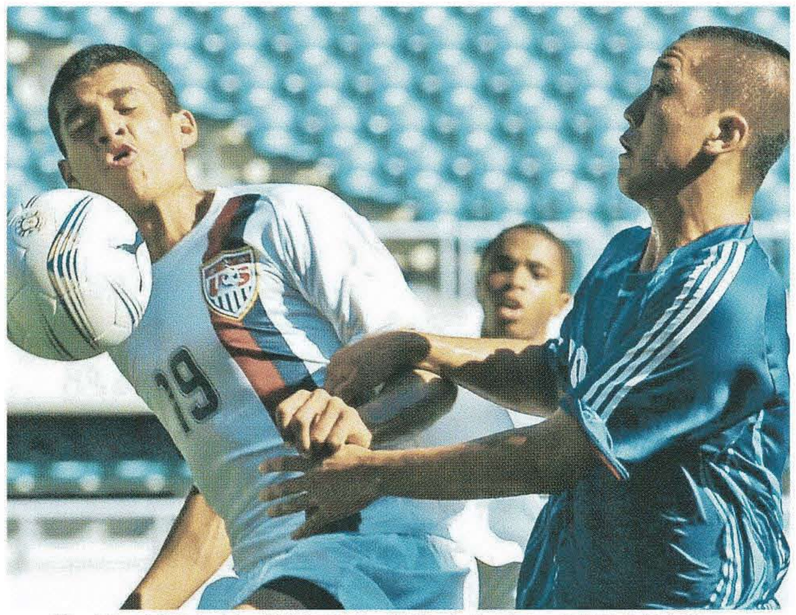
中山（現磐田）、V川崎などで活躍した武田らがいた〝黄金世代〟の静岡ユース以来の優勝だ。「大会の歴史に名を刻むことができてよかった」。表彰式でSBS杯を手にした主将の鳥羽は相好を崩した。

この大会のための急造チームだった。練習は大会前日の1日だけだったが、3試合ともに連係の取れたプレーを随所に見せた。「抜群のチームワーク。このまま解散するのは惜しい」。鳥羽は楽しかった5日間を総括した。

山田監督は「この経験をクラブや高校に戻っても生かしてほしい。できれば将来、プロになった姿を見たい」とV戦士たちに期待を込めた。

日本、米国に競り負け

決定機生み出せず



U―18日本代表―U―18米国代表　後半、レンジフォと競り合う白谷＝エコパスタジアム

U―18米国代表（3）1（0―0、1―0）0（0）U―18日本代表

▽得点者【米】バリー（ウィーダマン）

【評】ともに動きに精彩を欠いたが、ワンチャンスをものにした米国が競り勝った。

試合はキープ力に勝る日本の主導で進んだ。前半14分、素早く抜け出した杉浦がGKと一対一の場面をつくったが、わずかにシュートを外した。このあとも攻勢を続けたが、球離れが遅いため、米国のチェックに掛かって、決定機を生み出せなかった。

米国はこの試合も暑さに苦しんだ。このため、立ち上がりから押し込まれ、なかなか攻めの形ができなかった。だが、後半22分、カウンターから左に展開、ウィーダマンの折り返しをバリーが押し込んで、しぶとく決勝点を奪った。

暑さに苦しみ 動き鈍い米国

○…米国はこの大会に備え、涼しい北カリフォルニア・サンノゼで合宿を行ってきたという。ところが、待っていたのは厳しい暑さだった。このため動きは鈍く、静岡ユースとウクライナに完封負けを喫した。日本戦も切れ味に乏しく、立ち上がりから押し込まれた。

しかし、国の代表意識で日本を上回った。後半22分の貴重な決定機を逃さず、バリーが決勝ゴールをたたき出した。

「やはり勝利は素晴らしい。（連敗していた）痛みを和らげてくれる」。米国のジェンキンス監督は、暑さに苦しみながらつかんだ1勝に安どの表情を浮かべた。

【米国】4・5・1
GK　シラ
　　クラリン　ジフォ
　　バレタ　クニスト
　　タクエゴハザレス
　　ウスマ　ーダマンス
　　ツィセピック
　　ツィセピック
　　ツィセピック
　　ツィセピック
　　ツィセピック
9　S　H　6
9　G　K　10
6　C　K　4
12　F　K　14

【日本】4・4・2
大吉山大　加井椋杉丸宮
谷田村野　林　藤上原浦谷沢
【日本】平松・大分U―18（吉田）白谷・国見高（丸谷）安田・G大阪ユース（井上）原田・磐田ユース（杉浦）【米】ロドリゲス（ケリー）マクベイン（バリー）

チームまとまり欠く

代表の意地をかけた米国戦だった。「選手は全力を尽くしてくれたが、残念な結果に終わった」。敗戦の将・牧内監督の言葉に力はなかった。

前の2戦に続き、この日も選手たちの動きは鈍かった。遅い攻守の切り替え、パスやシュートの精度も欠いた。「一人一人の動く量が圧倒的に少なかった。今後は選手の入れ替えもある」と牧内監督は嘆いた。

チャンスがなかったわけではない。前半14分、主将の杉浦がゴール前に抜け出しシュート。しかし惜しくも左側に外れた。その後も相手パスをカットしシュートを見せたがゴールネットを揺らすことはできなかった。

相手DFのタックルで右肩を痛め退場した吉田は、「やることがバラバラではっきりしなかった」と3試合を振り返り、「最後までチームが一つになれなかった」と唇をかんだ。

（静岡新聞2007年8月15日朝刊）